

## 令和7年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(清水地区)

開催日時	令和7年11月14日(金)午後7時00分から午後8時50分
場所	清水ふれあいセンター
町民参加者	20人
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画総務課長、参事兼地域防災課長、保険健康課長、都市整備課長、新東名対策室長、上下水道課長、事務局3人

### 意見交換の概要

#### <町からのテーマ 山北町・各地区の将来の姿について>

町長： 第6次総合計画において町の将来像を描いているが、ダムがあつたりD52があつたりと他の市町村にはない特徴を生かしたまちづくりを進めていきたいと考えている。清水地区については、新東名高速道路の開通が起爆剤になると考えている。先日、視察にいった自治体では高速道路の出口から町へ向けての開発を進めており、今後のまちづくりの参考になった。清水地区は新東名高速道路の開通に伴い、町の玄関口になることから周辺の開発などを進めていきたいと考えている。

[所管課：企画総務課]

清水地区の人口は昭和30年の2600人をピークに下がり続け、現在では700人程度となっており当時の3分の1以下になってしまっている。人口減少に伴い核家族化が進み、交通手段がないという問題がある。町では令和3年度に交通に関する実証実験の実施、令和6年3月には山北町地域公共交通計画を策定し5年以内に具体的な取り組みを行うということになっているが、新しい取り組みや現状の進捗状況をお聞きしたい。地域に若い世代が少なくなっており、高齢化も進んでいるので、なるべく早く取り組んでもらいたい。

町長： 交通問題は山北町の大きな課題の一つとなっている。現在、会議体等で検討しているが早急に新たな交通システムの構築に取り組んでいきたい。共和地区では福祉バスを運行しているが同じような方法で清水・三保地区でも導入できないかと考えている。

企画総務課長： 令和3年度に3か月間、4年度に4か月間デマンドタクシーの試行運行を実施した。令和5年度には地域公共交通計画の策定が努力義務化されたことにより、町でも地域公共交通計画の策定を優先して取り組んだ。清水・三保地区においては、新たな公共交通を導入するにあたり、自宅に迎えに行くものにするのか、バスの運行がない時間にバス停まで行くものにするのか、そのほかに料金設定や運行エリアなどについて令和7年度中に方針を決めていく予定である。令和8年度には事業計画を策定し、国の手続きや町民への周知を行ったうえで早く令和9年度からの試行運行をめざし取り組んでいるところである。

参加者： 現在運行方法を検討しているとのことだが、私が住む地区では高齢化が進んでおり地区

にバス停があるがバス停まで行くのが難しいことから、以前のデマンドタクシーの試行運行と同じように自宅まできてもらえるかたちで、なるべく早い実施をお願いしたい。

企画総務課長： 地域ごとに抱えている課題は異なるので、それを踏まえながら早急に取り組んでいきたい。

[所管課：生涯学習課]

先日、町民文化祭が開催されたが今年は生涯学習センターフェスティバルと一緒に開催することができた。多くの人に舞台にあがって発表してもらえたと思う。しかし、参加者が少なくなってきており残念に感じている。山北町は歴史があり、様々な文化があり、伝統行事がある。これらを皆さんが子どもたちに伝えることにより、山北町が素敵だなと思ってもらえるような活動ができたと思う。なくなってしまった文化団体もあるが、新たな団体が生まれてくれればとも思う。個人で俳句などをやっている方もいると思う。そういう方が個人でも団体でも参加してくれればもっと良い発表会ができると思う。

副町長： 発表会には、小学生、中学生、高校生、高齢者と幅広い世代に参加してもらった。一方で話があったとおり、高齢化によりサークルが減ってしまっているのので、力を入れて取り組んでいきたい。

教育長： 今年度町民文化祭と生涯学習センターフェスティバルと一緒に開催し、それぞれのイベントの良さを生かし、以前よりも盛大に開催することができた。そのほか、児童・生徒の作品が展示され、それを見て町外からは感銘を受けていた。今後も伝統文化の継承をどうやっていったらよいのか、実態を鑑みて取り組んでいきたい。

町長： イベント当日だけでなく、伝統文化を継承していく一助になるよう当日の様子を映像で残していつでも見られるようにすることも考えていきたい。

[所管課：環境課、農林課、商工観光課]

山北町は横浜市と同じくらいの広大な面積があるが、横浜市は数百万人という人口がある一方で、山北町は人口減少が進んでいる。新東名高速道路が開通すると観光客が増えてくると思うが、まだまだ観光に対するアプローチが弱いと感じている。山北町は自然が豊かであることの価値を高めていくことが必要ではないか、ニーズにあった環境づくりを進めていってほしい。

人口減少により耕作放棄地が増えている。現在、全国でクマによる被害が増えており、昔あった里山が減ってきていることが原因ではないかと思っている。山北町の良さは自然が豊かなことであると考えているので、自然を効果的に生かすための取り組みについて伺いたい。

町長： 現在、道の駅の改修を行っているが、山北町に観光客が来た際にどういうアピールするのか県とも一緒になって検討を進めている。例えばデジタルサイネージの中に町の伝統行事などの映像を流せるようにするなど準備を進めている。内容はゲーム性を取り入れるなど若い世代にも見てもらえるものを考えている。町外からは山北の水に魅力を感じているようである。今までは、写真や動画などで周知していたが、今までとは違った手法での周知も検討していきたい。町外からの観光客は県内からが多くを占めており、リピーターも多くなって

いる。今後もリピーターを増やしていくことが重要だと考えている。今後、新東名高速道路が開通すると山北町までの距離がより近くなることからそのことをどうやってアピールしていくかも考えていきたい。皆さんの意見を聞きながら取り組んでいきたい。

[所管課：企画総務課、商工観光課]

観光振興について、山北町は自然豊かな西丹沢を抱えていることから谷峨駅の名称を「湘南アルプス駅」などと変えてみてはどうか。谷峨駅から不老山を經由して伊勢原市の大山の阿夫利神社へ続く道を整備してはどうか。新東名高速道路の開通も控えているので、このような観光の目玉を作るのはどうか。

町長： 様々な視点から意見をいただきたいと思っている。失敗をおそれず取り組んでいくことが大事だと思っている。町では県外8つの自治体と災害時相互応援協定を締結しているが、防災に関する交流だけではなく産業交流なども行っている。様々な交流をとおして、他自治体の取り組みや情報などを参考にしていきたい。

[所管課：環境課]

現在、シカやイノシシ、クマが増えてきている。11月から2月までの動物の狩猟期間が定められると思うが、期間を延ばすことを町から申請することはできないか。

町長： 先日、クマが御殿場線に轢かれてから、マスコミなどからの問い合わせが多くなっている。11月30日に開催予定の丹沢湖マラソンについても開催の可否の問い合わせが多くなっている。クマスプレーや花火などでの対策を行う予定である。現在は、シカが非常に増えており、捕獲を進めているものの、被害が多くなっている。シカは年間で20頭くらい轢かれてしまっている。町だけではなく県と一緒に対策を行っていきたい。(担当課確認：狩猟期間は法律で都道府県ごとに設定されており、町からは申請することができない。)

## <地域テーマ 新東名高速道路工事の進捗について>

### ○町から現在の新東名高速道路工事の進捗状況等について説明

新東名対策室長： 新東名高速道路工事については、令和9年度までに開通予定だったが工事事業者から11月5日に新秦野ICから新御殿場IC間の開通が1年以上遅れる見込みであるとの発表があった。遅延の理由は、高松トンネルの未掘削区間についてボーリング調査を実施したところ脆弱な地盤がこれまでの箇所と同様に確認され、今後も対策をしながら工事を進めていく必要があることが判明したためである。開通予定時期は現段階で示すことはできないが、高松トンネルの完成の見込みがたった時点で発表することを予定しているとのことである。これを受けて11月11日に新東名高速道路沿線の市町と県で構成する新東名高速道路建設促進協議会の促進大会において、国土交通省と中日本高速道路株式会社に対し、早期の開通時期を示すこと、工事の安全を最優先にしながら一日も早い開通を要

望したところである。

9月15日の工事中の(仮称)河内川橋の「名称発表記念式典」において、橋の名称が「山北天空大橋」に決定した。11月6日に上り線がつながり、来年の3月には下り線もつながる予定となっている。また、各橋梁とトンネルの正式名称が決定した。

町長：： 新東名高速道路、スマートインターチェンジの開通は、清水地区だけでなく町全体にとっても大きな変化をもたらすと考えている。すでに開通している秦野と伊勢原のICでは、当初予定していた3倍から5倍程度の車が利用している。山北のスマートインターチェンジが完成した場合、1日1300台の利用を予定しているが実際は約3000台の車が利用すると予想している。地域に経済的メリットをもたらす一方で、車が多くなることにより道路が混雑するというデメリットも予想されるほか、新東名高速道路の開通により国道246号線の交通量が減ることにより渋滞の緩和も予想されるので、これらのことを踏まえながら対策に取り組んでいきたい。清水小中学校の跡地利用についても地域の皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

[所管課：財務課、新東名対策室]

2月に新東名高速道路の工事事業者撤退後の清水小中学校の跡地利用について、現場を見て意見を聞きたいということで地域に話があったが、地域からどのような意見があったのか。地域の孤立が進んでいることから、地域の人が集まる場として利用できれば、人とのふれあいの機会も増やせると思うがどうか。

新東名対策室長： 旧清水小中学校の宿舎については、令和8年3月末に工事事業者の撤退が決まっている。現在、宿舎として活用しているが建物の経年劣化が進んでおり地域の方からはこのまま使用するの難しいのではないかとということであった。これを受けて工事事業者には、もとの教室の状態で町に返却してもらうことで決定している。その後の活用方法については、他の施設も含めて庁内会議で検討するとともに地域の意見を伺いながら進めていくこととなっている。

[所管課：新東名対策室]

大蔵野地区に住んでいるが新東名高速道路の完成図には防音壁がない。静岡県では街中をとおりる場合には防音壁が設置されているが、防音壁の設置の基準などはあるのか。

新東名対策室長： 完成図には防音壁までは描かれてはいない。NEXCO中日本において防音壁設置のための基準を設けている。新東名対策協議会の中でもご意見をいただいているが、地域からの意見をNEXCO中日本にも伝える。

[所管課：新東名対策室]

高松トンネルの工事が遅れているということだが、それ以外の箇所の工事の進捗についてはどうなっているのか。

新東名対策室長： 他の箇所の工事が遅れているという情報はなく、現場ごとに工事事業者が違うことから、予定どおり工事が進んでいると聞いている。スマートインターチェンジについては高松トンネル工事に関連する箇所もあるので、工事が遅れる可能性がある。

[所管課：商工観光課]

山北天空大橋の写真を川西橋などで撮影している人をよく見るが、撮影スポットを設けてはどうか。

町長： 以前から写真スポットの設置を検討している。橋と人とを一緒に撮影するのが難しいというのが課題と考えている。一か所だけでなく何か所が設置したいと考えている。橋のライトアップも検討して欲しいと工事事業者に要望している。

[所管課：企画総務課、商工観光課、都市整備課]

先ほどもあったが、谷峨駅の名称を「山北天空大橋駅」とするために JR と交渉していただけないか。道路の案内看板なども「天空大橋方面」というように出してもらえないか。

副町長： いただいた意見のように地域の皆さんから出された意見を参考にしていきたい。

[所管課：環境課、新東名対策室]

既に東名高速道路が通っており、さらに新東名高速道路が開通すると交通量が増えることにより、排気ガスの発生が増えることが心配される。県に要望するなどして地域に排気ガスや騒音などを観測できるものを設置してもらいたい。

新東名対策室長： 現在の東名高速道路は過去の基準で建設されたため勾配がきつくなっており、その分走行時の排気ガスが多く排出される。一方で現在建設中の新東名高速道路は勾配が緩く建設されており、現在の東名高速道路を走る車が新東名高速道路を走ることにより、走行時に排出される排気ガスの総数は少なくなると見積もられている。

地域防災課長： 観測機の設置については、県等関係機関に要望することを検討する。

## 〈テーマ その他〉

[所管課：地域防災課、新東名対策室]

自治会で自主防災組織防災資機材等購入費用助成金の申請をしたが、購入費用の90%が助成されるということだったが、申請額が予算額を上回ったため交付額が7割になるという連絡がきた。小さい自治会だと自己負担が大きくなると対応が難しい。減額の最低金額を定めるとか、翌年度に補填するなどの対応をお願いしたい。

この座談会にはじめて参加している方もいると思う。昨年度までの座談会でどういう意見があり、前年の会議録や町がどのように対応したかなどをこの場で配付してはどうか。参加者からの意見・要望に対して町がどのように対応したかを示していただかないとこの座談会の意味がないのではないか。

新東名高速道路の橋の名称を募集し山北天空大橋に名称が決定したが、名称を募集した際、二次元コードからしか応募できなかったため、地域の高齢者の中には応募ができなかったという人がいた。高齢者向けに申込用紙などからも応募ができるようにしてもらいたかった。

地域防災課長： 自主防災組織防災資機材購入費用助成金について、今年度は予算を上回る申請があったため、助成額が減額となってしまった。今年度の申請額を踏まえて、来年度以降は予算を確保できるよう努力していきたい。

座談会の趣旨は、町長と語りあっていただくことを目的に開催している。要望に対しては自治会要望を提出いただき回答している。

副町長： 当日に前回の会議録を配付するかは検討させていただきたい。

新東名対策室長： 橋の名称の募集は中日本高速道路が実施したもので、多くの方から名称を募集したいとの理由からインターネット上で募集を行った。今後このような機会があれば地域の皆さんの意見を聞くことができるような方法をとっていきたいと考えている。

## 〈その他 旧重田歯科医院の建物の活用について〉

保険健康課長： 清水ふれあいセンター（清水支所）近くの以前歯科医院であった建物の活用について、今年3月に施設をオープンする旨を昨年9月に民間事業者から清水地区の皆さんに回覧を行った。この民間事業者は全国の空き地を活用していこうという会社で、日曜大工が好きな方や学生に来てもらい作業を進めていくことをやっているが進捗がない状況である。

昨年の9月以降町から地域への情報提供を怠ってしまい申し訳なかった。今後は事業者と連携をとり、進捗などがあれば地域に情報提供させていただく。

参加者： 町と民間事業者との契約内容について伺いたい。

保険健康課長： 建物は町の所有になっており、事業者と賃貸借契約を締結し無償で貸している状況である。施設の完成後に賃貸料をもらう契約となっている。